

田尻町における農業振興策の検討について

1. 地区概要

- 関西国際空港の対岸に位置し、尾張池、夫婦池、道ノ池等を水源とする市街地に近接した平坦な地形の水田地帯
- 農家の高齢化や後継者不足等により、遊休農地の増加や資材置き場等への転用が増えていたことから、持続可能な農業を展開するため、令和4年度から市街化調整区域における農業振興策の検討を開始

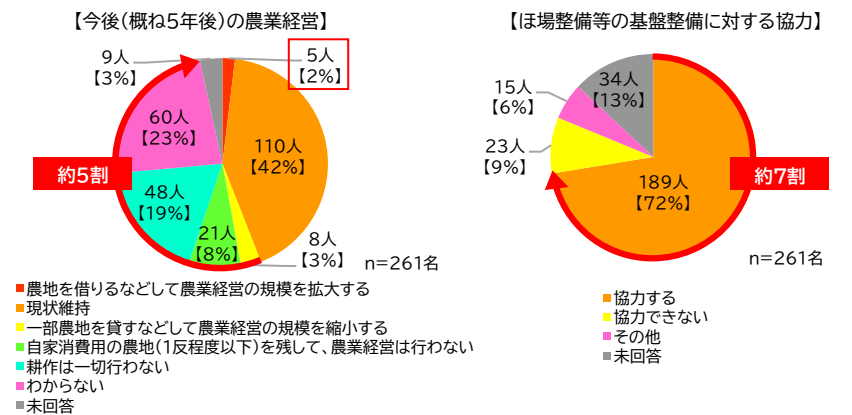
■ 耕地面積 54ha
■ 主な作物 水稻、野菜(ねぎ、玉ねぎ、キャベツ等)
■ 農地所有者 305名(町内185名+町外120名)



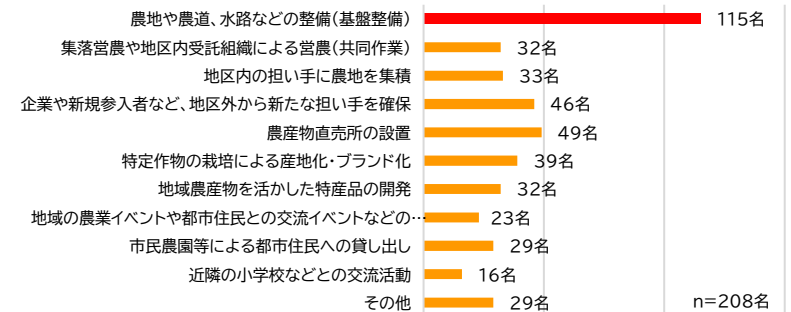
2. これまでの取組

- ① 農地所有者全員を対象に「アンケート調査」※を実施【R4.6～】
 - 農地所有者の約7割が70代以上、後継者が未定、不在の方が約9割
今後(概ね5年後)に農業経営は行わない、わからない方が約5割
⇒5年後に多くの農地が作り手不在となることが明らかに
 - ほ場整備等の基盤整備に協力する意向のある方が約7割
農業振興や地域活性化につながる取組に基盤整備と答えた方が半数以上
⇒基盤整備を望む声が多い
 - GISを活用し、調査結果の地図化と分析も併せて実施
 - ② 担い手(規模拡大意向農家)を対象に「ヒアリング調査」を実施【R4.11～】
 - 担い手は1～3反程度の規模拡大を希望
⇒地区の担い手だけで作り手不在となる農地すべて担うことはできず
町内外から農家や企業、都市住民等の多様な担い手を確保することが必要
 - 担い手は2反程度の広さで道路があり、冬場も取水可能な農地を希望
⇒**担い手が効率的な農業経営を行うための農地の集約と基盤づくりが必要**
 - ③ アンケート調査やヒアリング調査の結果を農家と共有【R5.1】
 - 農家総会において調査結果や今後の進め方等について農家と共有
 - ④ 集落毎(嘉祥寺地区、吉見地区)に集落座談会(ワークショップ)を開催【R5.2】
 - 担い手確保策や営農基盤の強化、観光との連携等、様々な意見が出た
- 【主な意見】

 - ・農家の法人化や農業法人(企業等)の誘致、農機具の共同化等
個人経営から法人経営への転換が必要
 - ・営農基盤の強化が必要(農地が狭小(約700m²/筆)、道路が必要等)
 - ・用水の安定供給が必要(冬場は水を使うことができない)
 - ・果樹等の観光や加工品にも拡がりがある品目への転換が必要
 - ・販路の多様化(直売や店舗との連携等)が必要
- 【集落座談会の状況】
- ⑤ 農業振興策を取りまとめ【R5.3】
 - これまでの取組を通じ、取組の方向性を3つの柱に整理



【田尻町の農業振興や活性化につながると思う取組】(複数回答可)



※アンケート回収率86%(261名/305名)

3. 取組の方向性と本年度の検討事項

- ### 1 多様な担い手の確保
- ◆ 個人経営から法人経営への転換
 - ◆ 意欲ある担い手の規模拡大と企業等の参入促進
 - ◆ 都市住民が農業にかかわる機会づくり



【集落営農(イメージ)】



【企業参入(イメージ)】



【収穫体験(イメージ)】

- 【担い手確保策の検討】
- ◆ 地元農家による法人化の検討
 - ◆ 企業等の参入促進

- ### 2 営農基盤の強化
- ◆ 農地の集約化と基盤整備の導入
 - ◆ 農業用水の改善
(水利慣行の見直し、水管理の省力化)



【ほ場整備(イメージ)】



【水路のパイプライン化(イメージ)】

- 【基盤整備導入の検討】
- ◆ 基盤整備導入に対する地元の合意形成
 - ◆ 水利慣行の見直し、水管理の省力化の検討

- ### 3 観光との連携
- ◆ 歴史・漁業・農業資源を活かした
周遊による観光・体験の取組の展開

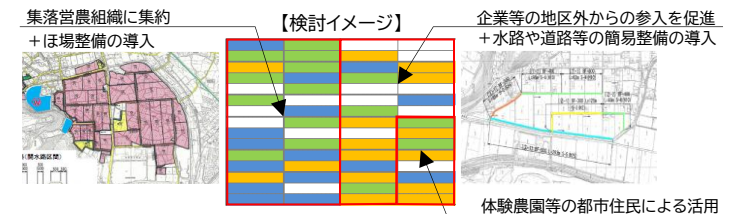


- 【観光との連携策の検討】
- ◆ 基本構想の検討
(周遊ルートや拠点整備等)

4. 今後のスケジュール

令和5年度

担い手確保策(集落営農や地区外からの参入等)や基盤整備の導入について、集落毎に話し合いを進めるとともに基盤整備を導入した場合の構想図の作成を行い、事業実施に向けた合意形成を図る。
また、企業等に農地を集約する取組をモデル的に実施する



令和6年度以降

集落毎に話し合いを継続し、担い手確保策の具体化を図るとともに基盤整備を導入する場合は調査設計を行う。また、観光との連携に関する基本構想の作成を行う。

